



朝日健太郎
KENTARO ASAHI

早瀬久美
KUMI HAYASE

牛尾洋人
HIROHITO USHIO

特別てい談：朝日健太郎×早瀬久美×牛尾洋人

100年の歴史、その先へ

朝日 東京2025デフリンピックを通じて、伝えたいメッセージはありますか？

早瀬 私はデフアスリートですが、音が聞こえない、聞こえるということに関係なく日本国民の中の自転車競技をやっている。人の選手として、持っているチカラを出し切り、その姿を皆さんに見てもらいたいです。

朝日 身体の特性があるなし関係なく、早瀬さんは一人のアスリート。そして薬剤師というお仕事をしながら競技と向き合っているんですね。早瀬 平日は病院に勤務しフルタイムで働いています。練習は早朝、勤務後の夜、日曜日は大会等に出席しています。牛尾 「ろう」という障がいを理解して配慮するのは必要だと思いますが、元々デフリンピックは記録を目標にした大会。ビーチバレーボールの選手たちは、健常者の大会に出場して競技力を高めています。見ている方々をプレーで魅了

100年という「点」ではなく、共生社会がさらに発展していくように

できるように、そういう意識で取り組んでいます。

朝日 ビーチバレーボールは日本代表の拠点である大分駅前広場で、国際親善試合を誘致して盛況だったようですね。

牛尾 砂を広場に入れてコートを作るのからメデアに取り上げていただき、相撲でもやるのか？と（笑）、地元でも話題だったようです。共催の大部分心まちづくり委員会さんとも乗り気で一緒に盛り上げていただきました。

朝日 デフリンピックはこの東京大会で100周年の記念大会を迎えますね。

早瀬 東京のデフリンピックに向けて何かをやるのではなく、あくまでもこれは通過点です。日本で開催した後も、一過性で終わるのではなく、これまでやってきたことを熟成させ、デフリンピックで得たものを継続させていく社会になってほしいと思います。

朝日 ぜひパフォーマンスを追求して挑戦し続けてほしいですね。100年という「点」ではなく、これからさらに共生社会が発展していくよう願っています。



連載コラム うみ旅。思い出の景色

エコロジイが浸透していた島

オーストラリアのクイーンズランド州に「砂」でできた大きな島があります。名前はガリ（旧フレイザー島）。オーストラリア大陸から流れ行きついた砂が堆積し、標高200m以上の砂丘、眩しいほど輝くホワイトサンドが出てくれています。

世界遺産にも登録されている世界最大の砂の島に家族で旅行に訪れました。どこまでも続く砂浜をバギーで颯爽と走ったり、ホエール&ドルフィ



田村明比古
AKIHIRO TANURA

の、社会全体の意識はまだそこまで高くなかったように思います。

ガリ島民が徹底してきた理由に、高い透明度を誇る淡水砂丘湖の存在が挙げられます。油脂を含んだ石鹸やクリームが湖に流れ出すと、その透明度が低下してしまうからです。元々、海が好きという理由で選んだ家族旅行の地。人生で初めてエコツーリズムを身近に感じた旅となりました。

片山右京氏が初来場。

「ビーチライフin九十九里町2024」開催

千葉県・九十九里町の片貝中央海岸において10月14日（日）、「ビーチライフin九十九里町2024」が開催された。今回で2年目を迎えた本イベントは、良質な砂を活用して作られた全長3.8kmのコースを利用した「ビーチクロス」、ビーチサッカーやビーチサン跳ばし、ダンスフェスティバル、はだし運動会、地元産焼きはまぐり無料配布などのプログラムを展開した。オーブニングセレモニーでは、「元F1ドライバー」であり、登山家、自転車レーサーとして幅広く活躍してきた片山右

京氏（ジャパンサイクルリグチエアマン）が来場。日本ビーチ文化振興協会アンバサダー朝日健太郎氏、日本シクロクロス競技主催者協会理事の楠木亮二氏が登壇。「環境の視点からみるサイクルスポーツ×ビーチスポーツ」についてトークショーを行った。



A. 朝日氏、片山氏、楠木氏によるトークショー B. ビーチサッカークリニックではビーチサッカー日本代表の上里球文選手が指導した C. 片貝中央海岸を駆け抜けるビーチクロスの選手たち



編集後記 佐伯美香

新年度がスタートいたしました。今年も1年を通じて海辺を活用し、ビーチから元気になる日本を目指して活動して参ります。秋の「JBG F千葉」「JBG須磨」という各地のビッグイベントを通じて、各競技の魅力伝えるときに、気候変動による温暖化と海面上昇を食い止める対策、海辺の環境保全活動ビーチクリーンなどより一層、努めて参ります。

今号で弊誌も10周年、第20号を迎えました。これも、重に活動を応援してくださった皆様のご支援の賜物です。引き続き、海辺に親しみが湧き、思わずはだしになりくなるようなワクワクするコースを届け参ります。ご愛顧のほどよろしくお願い致します。



※欄不同

ツボを押さえて読むほどハマる！

はだし文化新聞

ふむふむ

2025
No. 20
5月15日

2025年5月15日発行 通巻 第20号
発行/NPO法人日本ビーチ文化振興協会
編集人/佐伯美香
〒104-0033 東京都中央区新川1-1-7 リバーサイド茅場町3階
電話 03-3552-1171

編集スタッフ/吉田亜衣 (BeachvolleyballStyle)
デザイン/島内泰弘デザイン室

INDEX

- 1面 ・特別てい談：朝日健太郎×早瀬久美×牛尾洋人
2-3面 ・「ジャパンビーチゲームズ須磨2024」開催
・「2024年度 活動報告会」
・連載：Sports to Smile～スポーツで社会を笑顔に～
第3回 日本財団がランニングセンター
・連載：朝日健太郎が目利きする砂ソムリエ
・連載：おらが街のビーチ自慢
4面 ・特別てい談 続編
・「ビーチライフin九十九里町2024」開催
・連載コラム：うみ旅。思い出の景色
・編集後記：はだしの足跡

2025年11月、東京で開催される「東京2025デフリンピック」。全21競技のデフアスリートによるスポーツの競演は、共存の社会において何をめたらすのだろうか。日本ビーチ文化振興協会アンバサダー朝日健太郎氏がデフリンピック自転車競技日本代表内定選手の早瀬久美さん、日本デフビーチバレーボール協会理事長の牛尾洋人さんを迎えて、デフリンピック開催の意義について意見交換した。

Photo/Asahi Mainstage

朝日 いよいよ開幕が近づいてきました。私自身も2025年デフリンピック東京大会推進議員連盟の委員として、日本開催が決まった時はとても嬉しかったです。ユニバーサルな社会を深めるという意義

で開催された東京オリンピック・パラリンピックの4年後にデフリンピックが東京で開催できるのは、素晴らしい機会

見てほしいのはコミュニケーションの取り方。デフリンピックが社会にもたらすもの

会だと思っています。お二人が考える観戦ポイントはどんな点でしょうか？
早瀬 聞こえない世界というのを、デフリンピックで初めて知る方も多いのではないのでしょうか。見てほしいのはコミュニケーションの取り方です。音が聞こえない私たちは、相手の目を見ながら判断をしています。自転車競技でも治道の観客の顔を見ながら走りまわすし、そこで応援してくれているな、と感じているんです。

牛尾 目と目を合わせて会話するのは大切。普段の生活を振り返ると、声だけを聴いて会話していることが多い。ビーチバレーボールは、ボールが空中で動いている間にプレーをしなきゃいけないので、アイコンタクトをとる時間もない。だからこそ試合に臨むまでのペア同士の会話、準備が重要です。

朝日 応援する側も、選手と目が合ったらますます応援に熱が入る。選手のパフォーマンス向上にも直結しそうですね。

早瀬 デフリンピック運営委員会も、いろんな応援方法を話し合っています。例えば、音では伝わらないのでランプを活用したグッズとか。会場内では音が聞こえる人も聞こえない人も競技ルールがわかるような仕組みを設置したり、ランプの色を使い分けて障がいの重度を示したり。

牛尾 屋内競技だと床を踏んで合図なども可能ですが、ビーチは砂なのでそれができません。審判はホイッスルと一緒にネットを揺らして選手たちに合図をしています。

朝日 デフリンピックを観戦することで、いろいろなコミュニケーション方法があるのだと気づきますね。

朝日 いま、「ユニケーション」

「4面に続く」

SPORTS to smile

～スポーツで社会を笑顔に～

日本財団ボランティアセンター

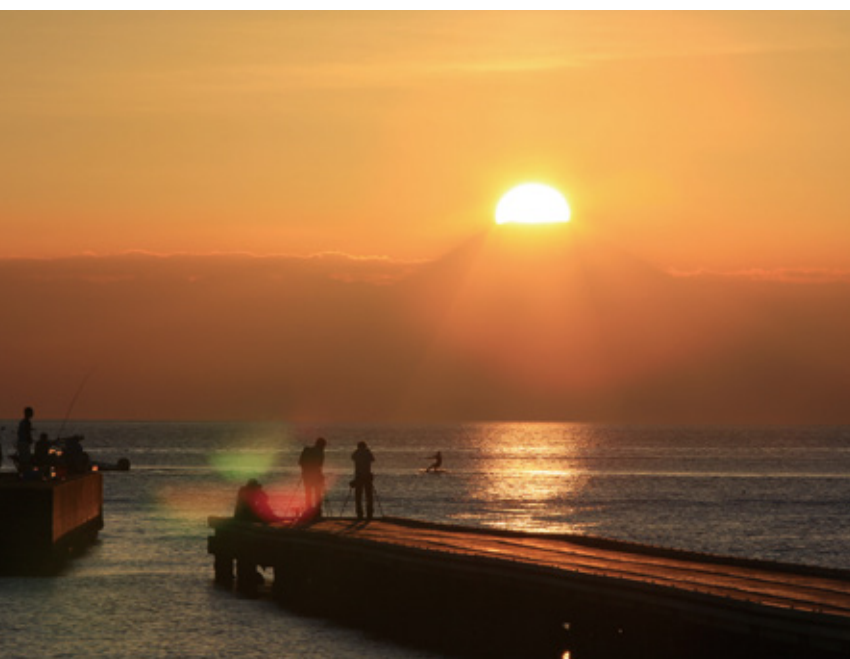


ぼ活のビブスが目印。会場設営を行うボランティア

「日常生活では自分と価値観が近い人と接することが多いですが、ボランティア活動では、はじめまして、という方ともチームを組みます。皆で考えて工夫しながら同じ目標に向かって進んでいく中で、ときには自分が思いもしないような意見もあるでしょう。それが自分の能力や弱点など、新たな側面に気づききっかけとなります。始まる前と後では、皆さんの表情は全然違いますね。藤岡さんは幾度なくそんなシーンを見てきたと話します。



ボランティアセンタースタッフがフェスティバルでは親子で参加する姿も



絶景のダイヤモンド富士が館山湾に鏡のように映る



炙り海鮮丼

彩り豊かな三段どんぶり重にお刺身、野菜、お寿司がぎっしり詰まった海鮮丼。それが「館山炙り海鮮丼」。こだわりの海産物や野菜をゆづり炙りながら、舌鼓。館山が誇る「当地グルメ」をぜひ味わってください。

おらが街の味自慢

彩り豊かな三段どんぶり重にお刺身、野菜、お寿司がぎっしり詰まった海鮮丼。それが「館山炙り海鮮丼」。こだわりの海産物や野菜をゆづり炙りながら、舌鼓。館山が誇る「当地グルメ」をぜひ味わってください。

ぼ活！で生まれる新たな出会いとつながり、そして自分の可能性

スポーツ大会や文化イベントで「ぼ活」というロゴが入ったビブスを見たことはあるだろうか。「ぼ活」とはボランティア活動の略称に由来する、日本財団ボランティアセンター運営のボランティアプラットフォームのこと。いまやボランティアは、さまざまな現場をサポートする欠かせない存在となっている。

「ぼ活！を通じて、生まれるつながりと自分の可能性。新たな出会いの集合体は、スポーツ界だけではなく、どんな現場も笑顔にしてくれるはずだ。」

東京2020大会以降、ジャパンビーチゲームズフェスティバルでも毎回100名近くのボランティアが活動している。活動内容は運営のサポート。しかし、そこで生まれるのは、役割をやり遂げた充実感だけではないようだ。



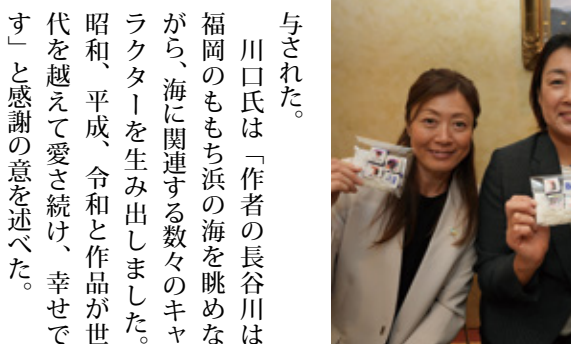
北条海岸の名物ビーチマーケット



上：感謝状を贈呈された長谷川町子美術館館長・川口氏
下：懇親会ではビーチバレーボールトップ選手の石島雄介選手、庄司憲右選手が挨拶した
右下：受付では理事たちからバレンタインチョコが配布された



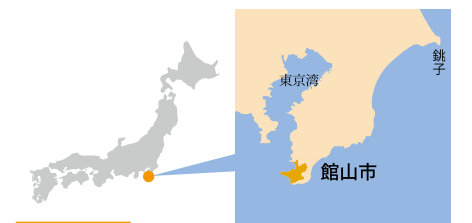
創立22年目を迎えたNPO法人日本ビーチ文化振興協会は2月12日（火）、東京都内にて『2024年度活動報告会』を開催した。会には約100名の賛助会員が出席し、お祝いの言葉が次々に発せられた。



川口氏は「作者の長谷川は福岡のもち浜の海を眺めながら、海に関連する数々のキャラクターを生み出しました。昭和、平成、令和と作品が世代を越えて愛され続け、幸せです」と感謝の意を述べた。

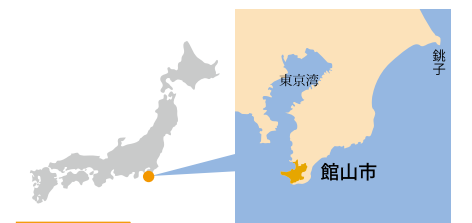
おらが街のビーチ自慢

～ここはいいトコ、一度はおいで～



地域DATA
人口 42,502人 (R7年4月1日現在の常住人口)
代表ビーチ 北条海岸(鏡ヶ浦)
観光名所 沖ノ島、崖の観音、館山城
名産 かんべれタス、西餅ひまわり、いちご
宿泊施設 ホテル・旅館・民宿・貸別荘など多数

千葉県・館山市



地域DATA
人口 42,502人 (R7年4月1日現在の常住人口)
代表ビーチ 北条海岸(鏡ヶ浦)
観光名所 沖ノ島、崖の観音、館山城
名産 かんべれタス、西餅ひまわり、いちご
宿泊施設 ホテル・旅館・民宿・貸別荘など多数

「ジャパンビーチゲームズ 須磨2024」開催



25000人が須磨海岸と親しみ楽しんだ

A. 新しく参入した競技・ビーチコーフボール
B. フライングディスクの体験を楽しむ参加者
C. 子どもたちが楽しんでいたはだし運動会
D. 地元のグルメが顔をそろえたすまいる食堂
E. 前夜祭ではバリ五輪ビーチバレーボール日本代表の長谷川暁子/石井美樹組が出席した
F. 須磨の砂を詰めたJBGトロフィー

川崎市・かわさきの浜

日本・神奈川県



元プロビーチバレーボールプレイヤー・朝日健太郎が各地の砂を踏んで触ってビーチスポーツにふさわしい砂を選ぶ「砂ソムリエ」は、足跡3つが最高だ。さて連載第20回は神奈川県川崎市の東扇島東公園に広がるかわさきの浜の砂。

40億年前、地球上に生命が誕生する。その歴史を辿ればそこは海である。であるからだろう、人々は海をとても愛してしまう。

「川崎市において、海を感じることが出来る唯一の海岸がかわさきの浜だ。なんと誇らしいところか。150万人を超える市民の憩いの浜として国内でも輝きを放つ。」

さらに、まさか川崎市に浜が存在していたとは、と未だに市民を驚かせているらしい。そしてこれだけは記さなければならない。この浜の隣には川崎マリエンビーチコートが存在するが、この施設誕生秘話に小生は深く関わっている。当時、川崎市は国内で最も早くビーチ活用をのぞき、様々な整備が進み現在に至る。その恩恵は当初想定していた数段上の効果を生み出している。かわさきの浜では多くの市民がはだしになってビーチライフを楽しむ。隣のマリエンではオリンピック選手が育成されている。川崎の両砂たちもまさかここまで自分たちが活躍するとは思っていなかっただろう。かわさきの浜へくしゅりに足を運び、たまには労わってあげなければ、と独り言ちている今日この頃でもある。

砂ソムリエ

第20回

朝日健太郎が目利きする

元プロビーチバレーボールプレイヤー・朝日健太郎が各地の砂を踏んで触ってビーチスポーツにふさわしい砂を選ぶ「砂ソムリエ」は、足跡3つが最高だ。さて連載第20回は神奈川県川崎市の東扇島東公園に広がるかわさきの浜の砂。